

会議名	第3回みんなでまちをよくする「ミナヨク」事業支援業務委託事業候補者選考委員会
開催日時	令和6年9月3日(火曜日) 午後3時から午後5時まで
開催場所	麻布区民協働スペース
委員	(出席者) ※敬称略 委員長 麻布地区総合支所長 太田 貴二 副委員長 麻布地区総合支所協働推進課長 池端 隼人 委員 麻布地区総合支所管理課長 鳥居 誠之 麻布地区総合支所まちづくり課長 傳法谷 大樹 麻布地区総合支所区民課長 川口 薫 (欠席者) なし
事務局	麻布地区総合支所地区政策担当係長 麻布地区総合支所協働推進係
傍聴者	なし(非公開)
会議次第	1 第二次審査実施概要について 2 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 3 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 4 第2回選考委員会議事録について 5 その他
配布資料	資料1 第二次審査実施概要 資料1別紙 第3回事業候補者選考委員会進行スケジュール 資料2 第二次審査採点基準表(2事業者分) 資料3 第二次審査における共通質問事項趣旨 資料4 第一次審査・第二次審査集計結果 資料5 第2回選考委員会議事録概要 参考資料1 第一次審査集計結果 参考資料2 事業候補者選考基準 参考資料3 仕様書(案)
会議の結果及び主要な発言	
委員長	0 開会 1 第二次審査実施概要について (1) 第二次審査における評価及び事業候補者の決定について (配布資料について説明) 何か質問等はあるか。

各委員	<p>(一同、質問なし)</p> <p>2 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施</p> <p>事業者A (30 分間)</p> <p>事業者Aプレゼンテーション (20 分間)</p> <p>事業者Aヒアリング (10 分間)</p>
委員A	<p>ワークショップやフィールドワークを実施する予定であるが、現時点で講師等の確約取れている方いるか。</p>
事業者A	<p>メイン講師はプロジェクトリーダーが担当する。</p> <p>各講座の講師は、これからの声かけになるがNPO法人や地域の商店街や地域に根付いた活動をされている方をお願いしたい。</p>
委員C	<p>仕事中心で地域との関係が希薄な 30 代～50 代ターゲットにということはそのとおりだ。募集方法を Facebook や X にしても、仕事中心世代の生活は変わらないので、その世代の参加を促す工夫があれば教えてほしい。また様式の提案のところで、イベントの企画内容で麻布地区の特色の生かした部分を示しながらという投げかけをしていたが、それが提案書から伺えなかったため聞きたい。</p>
事業者A	<p>講座の開催日程を土曜日にした。</p> <p>麻布地区の特色は具体的にどこか決まっていないが、フィールドワークを麻布地区で行い、その地域をめぐることで麻布地区のいいところ悪いところ改善したいところを参加者の目線で挙げてもらいそこからアイデアを出していく。</p>
委員E	<p>様式 10、受講生の自主的な活動について、途中離脱防止対策として宿題を出すとのことだがどのようにするのか。</p>
事業者A	<p>過去のアイデアで 1 人 1 つ、というところが負担となって離脱者が出ていた。そのためグループでのアイデア創出を促す、またオンラインと対面のハイブリットで実施することで現地に足を運ぶことが難しい方にも配慮をした。</p>

委員E	事業を通じた港区への社会貢献についてはどう考えているか。
事業者A	<p>活動の継続性に課題があると感じている。1年間通して活動して企画をして実行することまで体験した方が自分たち一人で活動するのが難しいのでそこを継続できるようにしたい</p> <p>育てたコミュニティサポーターの輪を継続させ、港区に住み続け、港区への愛着を深めてもらうように活動で目指していきたい。</p>
委員D	麻布地区の特色について参加者に確認しながら進めていくとのことだが、麻布は地区ごとに個性があるが麻布の好きな点嫌いな点があれば教えてほしい。
事業者A	<p>私自身は麻布十番祭りなど来たりする。イベントがあると人が集まってくる点がメリットである。外国人が多く治安に不安のあるエリアもあり、子どもなどが安心して過ごせるエリアが限られている点がデメリット。</p> <p>派手なエリアと一歩路地に入ると落ち着いている雰囲気のあるエリアがある。このように派手であるところとそうでないところの融合がある点が良い。麻布地区歩いていると昔からある店が減ってきているのも現状としてある。事業継承の部分はこの活動でできるといいなと思う。</p>
委員D	他市の事例でポイントを付与するというようなことを書かれていてそれを麻布でということを書いていたが具体的にはどのようなことをするのか。
事業者A	他の自治体では地域ポイントのようなものを区や市全体で活動としてデジタル化として行っている。参加していただいているなら地域の活動に貢献した方に対してポイントを付与する。それを蓄積していくと地域サービスが受けられるということで参加者を増やすことに繋げている活動をしている。港区においても地域ポイントは現時点では無い様なので、事業名を検討しながら広げていければと思う。
委員D	情報を得る選択について色々なコンテンツがあると逆に区民の方は混乱して見なくなる。スマイル商品券があるので、一緒に取り

	組むのもいいと考える。
事業者A	ありがとうございます。
委員B	課題としては、まず、いかに参加者を募るか、いかにアイデアを引き出せるか。年齢層で参加者のターゲットを絞っているが、年齢以外でのターゲット設定があるのか。次に、アイデアを出すときに麻布の良いところ悪いところを踏まえてどのようにアイデアを出して参加者をサポートできるか。
事業者A	あまり幅を絞ってしまってもよくないが、例えば会社以外のサードコミュニティに属していない50代男性を別にターゲット設定するのもありだと思う。男性のほうが女性に比べて交流する機会が少ないので、他の人と交流する場はあってもいいと思っている。アイデア出しについてはサポートを行い、グループに一人ファシリテーターを置き、アイデア出しをスムーズにできるように支援したい。
委員B	ファシリテーターについて類似の業務があるが、これが一番いいアイデア出しができたという実例があれば教えてほしい。
事業者A	机上で何か出してくださいというと、フワツとしたことが出てくる。実際に体験したことだといいいアイデアが多く出てくるという点。アイデアを導くワークシートなどのツールを使ってアイデア出しのサポートを行っていきたい。
委員A	色々の事業を手伝われているが、公共の事業はあまりない印象だが、なぜ麻布のこの事業に応募したのか。
事業者A	以前からこの事業にかかわっていた。色々なことをやってきたが、直接住民と一緒に何かを考えるかということの実績をつけていきたい。
委員A	社としての方針について紹介してほしい。
事業者A	DXなどデジタルを使って地域課題を解決しようというのがポイ

	<p>ント。今回は少し離れているが、課題はこのようなところに潜んでいる。</p>
委員E	<p>これまで色々な事業にかかわってきた中で、本事業を受注した場合に活用できる過去の事例はあるか。</p>
事業者A	<p>ある自治体は地域の困りごとを解決するプロボノメンバーを育成している。気づいた点としては、地域の方にどれだけ参加を呼び掛けても入ってくれない。自治体と一緒にいることが参加者確保のポイント。アイデアの実行の継続性については、参加者と一緒に困りごとを解決するが、年度単位で終わってしまうのが課題。事業が終わった後も継続した支援が必要。</p> <p>他にもある自治体の青年会議所は自分たちで事業も出すことがあるので、具体的な地域に根差したアイデアを出しができる。港区の青年会議所にも声をかけられれば良いと考えている。</p> <p>20代の学生にも声をかけるというのも、今後を担うという点からもいい。アイデアカードも用いていきたい。</p> <p>加えて、聞いて終わりではなく総合計画にどのように紐づくのか関連性を見出して事業化をしている事例などもあるので、港区でも検討できたらいいなと思う。</p> <p style="text-align: center;">～事業者A退出～</p> <p>事業者B（30分間） 事業者Bプレゼンテーション（20分間） 事業者Bヒアリング（10分間）</p>
委員A	<p>提案書のスケジュールで、ワークショップやゲストトークについて講師について確約があるのか。</p>
事業者B	<p>外部から2名呼ぶことを考えている。1人目は商店街のまちづくりに貢献された方、2人目はミナヨクを一番に始めた方。この2人は確約あり。サポーターについては15名を考えている。ミナヨク6期生から8期生13名の方から申し出があった。あとは少しずつ増やしていきたい。前回のスラック上での繋がりしかないため、今までの形をさらにバージョンアップしていく。</p>

委員C	<p>1つ目が様式10にあるアイデア作りの工夫という所で運営と適度な距離を保ちながら、街中で主役となるよう内部的動機づけでエンパワーメントしていくという点について補足が欲しい。</p> <p>2つ目は参加者を増やすためにも公式なホームページを作りたいという部分も発掘したいということ。能動的にほかに引っ張ってくる仕組みは。</p> <p>3つ目は卒業生の具体的な立ち位置や振る舞いはどうするのか。</p>
事業者B	<p>1つ目の質問については、今まではスクール形式だったため、技術的なことを教えて外に出るということが多かった。本来はなんでやりたいのか内発的な部分になる。その人たちが大切にしていること、人、場所に特化してその方たち自身が主役となれるような内発的動機を作るということが大事ということが伝えたかった。</p> <p>2つ目にホームページに関しては区のホームページと併せて作っていく。2年前からミナヨク受講生が立ち上げた麻布ファンクラブのLINEグループがあり、去年、一昨年に立ち上がった「麻布みんなのラジオ」というものがある。SNS自体がネットワークを作っており、元参加者に告知を手伝ってもらおうと考えている。</p> <p>3つ目の卒業生の役割については、講座の運営、ボランティアとそうでないかは関わりによる。場作りとチームとして成り立ってくために、ミナヨクに対しての思い入れのある方や運営を手伝ってもらう方、地域との連携をする方それぞれが、企画を発表して実現の途中で、チームは動いているが連携の足りない、色々な繋ぎの足りないところがあるのが現状。補完しあってその人たちがコミュニティサポーターになれるよう運営しながらできるようにする。</p> <p>有償か無償かなのかは集まった人と相談して1回2万円程度として、活動しているチームへ払う予定でなるべく有償で考えている。</p> <p>ホームページについては、ミナヨクが港区の事業であるため予算があり、行政がやってくれるという認識のスタート地点を変えたい。活動の見える化とオリジナルで作ることで区の発信と連動してミナヨクを自立したサイトにしたい。</p>

委員E	15名の卒業生を参加させるということでノウハウがあるということだが、10月から取組にあたって事業を自主的に取組める人がいる一方で脱落して来なくなってしまう方もいるのでそのような方をどの様にフォローしていくか。
事業者B	今までもいたが、食事している時に実は自分が実現したいこととミナヨクが違うということがあり、そもそも慣れてなく、既存の修了生の企画に重なる形でサポートして入る人もいる。難しい人には対話を繰り返しながら引き止めはするが、無理やりでなく自然とまた帰ってきてもらえる環境は残しつつご自身の意志に合わせる。疎外感があって辞めるようなことは無い。 座学的になりすぎて難しく捉えられてしまう方にはメールをしたりして個別で歩み寄ったことがある。
委員E	ケース1.2.3をお話していただいたが、港区の麻布で取組む中で活動出来そうな事例や体験があればご紹介を。
事業者B	ケース1は、ある自治体では年に1回市民活動フォーラムと市民交流会をやる相談があった。実行委員を立ち上げ、商店街や大学生、社会福祉協議会、フリーランス、市職員でチームを立ち上げた。ミナヨクのような毎月集まりフィールドワークと座学を行って、実証実験であるフォーラムと交流会を行った。今ではこのチームは指定管理を受託している。任意団体では難しいので会社とJVを組んで取り組んでいる。今は公益と公共性をどのように運営するか学んでいる。また20代の学生や30代の若手や40代の主婦がセンター長をやっている。県の事業の委託や市の総合政策の受託をして、まちづくりに取り組んでいる。
委員D	進め方や到達目標の設定については無理がなく、関わり方の緩やかなものや事前の1対1のミーティングがあり丁寧な対応があるのでこのように進められたらいいと思っている。上手く進めるための肝はあるのか。
事業者B	色々な自治体と関わる際には資料の1「自治力」、2「あらたな動き」、3「つなぎ役」、4「未来の話」の順番で地域を眺めている。町会など元々ある地盤インフラやネットワークと、新たな年齢関

	<p>係なく自分たちの街で叶えたいものがどうしても乖離している。1はエリア型、2は提案型になるので3の「つなぎ役」が大事。我々が自治体の担当と一緒に取組みたい。活動していくと出来るか出来ないかの話になる。言い合いになっていた時にある方が未来の子ども達と話をしようと言った際には、みんなで背筋が伸びた。皆で未来の話ができるような雰囲気作りを個別でやっていく必要があると思った。これら4つが出来上がると活動人口が増え、関係人口も増える。この中で担い手の構築といった形が生まれるかもしれない。</p>
委員D	<p>麻布は麻布ならではのものを求めているので、事業者選ばれた際はこの部分意識して貰えたらと思う。</p>
委員B	<p>地縁者の求める担い手と受講生の自己実現のギャップはどういうギャップがあって今後どう埋めようと考えているか。 また、卒業生が入ることは大事だが、内輪ノリになる。いかに打破するか。</p>
事業者B	<p>色々な受講生が企画をする時に例えば地縁者に対して負担が無いようにする。可能性を感じて協力してくれる方が多いが、お互いに歩み寄って行かなくてはならない。麻布のローカルのあり方について対話を重ね、長期的なスケジュールを持ちながら情報交換と対話をしっかり行う。 動けば動くほど内側に作用してしまう。巻き込まずに地域に巻き込まれることを徹底する。 町会活動を20年-30年やるとカレンダーどおりになってしまう。今までの継続は赤信号なので、ミナヨクでどうして行くかを考えることで街に入って来てもらう人を発掘しないと話にならないのでそこを意識する。</p>
委員A	<p>町会自治会の先行きが大変になってくるのが現状。伝統ある町会自治会とミナヨクがコラボしてどういった麻布地区が理想なのかあれば教えてほしい。</p>
事業者B	<p>急に公益性で動くのは難しい、私益で始まり周りの協力が進み協益になり、20-30年して公益になる。ミナヨクを通してこの様な</p>

	<p>プロセスを踏んだ街にしたい。</p> <p style="text-align: center;">～事業者B退出～ ～委員による採点、集計～</p> <p>3 第二次審査結果及び事業候補者の選定について</p>
事務局	<p>第二次審査の得点は事業者Aが340点、事業者Bが376点となっている。どちらも500点満点の最低60%ラインをどちらも超えている。</p> <p>第一次審査と第二次審査の合計した総合評価の事業者Aが1027点、事業者Bが1036点となった。</p>
委員長	各委員からの講評を
委員C	<p>どちらもできそうだが、事業者Aをわずかプレゼンについて高めに採点している。事業者Aは新たな人材を発掘できるかのその部分で評価した。30代から50代の参加に強く述べていて、フィールドワークをやる中で課題を見つける点は不明瞭ではあるが、他の自治体でも事例があるのでそこを活かしていければいいのかなと思った。事業者Bは新たな人材発掘の観点で見ると、やる人だけで十分になってしまう。ホームページ作ることについても、新たに見た人は参加するのは難しい。SNSとかラジオとか元参加者のネットワークを使い広めていくという点に引っかかった。そこだけで差をつけた。どちらも担えそうだと評価しています。</p>
委員E	<p>事業者Bを事業者Aより高くした。事業者Aは言葉あるが内容は一般的でどの業者でも提案でき、具体性が見えてこなかった。しかし、最後にアイデアカードや青年会議所についての説明があり実施の実現はできると考えられた。事業者Bについては15名の卒業生の参加があること、座学からフィールドワークへ変更といった実体験の結果新たに事業を提案できることは評価できる。</p>
委員D	<p>一次審査についても事業者Bを評価していた。プレゼンについても事業者Aは麻布でなくてもできるとなった。これは裏を返せば色々な事例を組み合わせたアプローチだったため、麻布ならではの</p>

	<p>の尖った方向性が欲しいなと思った。事業者Aは可もなく不可もない。事業者Bは担った時の具体的なイメージを持たれている。参加する方の色々な種類の関わり方を用意していて多様性を意識した会社と感じたので事業者Bを評価した。ただ、どちらでも業務はできそうだと感じた。</p>
委員B	<p>どちらでもできるだろうということで同じ評価になった。事業者Aはアイデアカードがあり、参加者からのアイデアの引き出す工夫がある点があるのを評価した。事業者Bはより具体的な提案が見られるので発展性がある。閉鎖的な点は不安点であるがどちらもできると考えている。</p>
委員A	<p>だいたい皆さんと同じ評価になる。事業者Aは説明が上手だった。事業者Bは経験値の部分ではより具体的な説明ができていたと思う。いわゆる事業者の組織としての力は両方とも変わらず甲乙つけられなかったため、オール4として付けた。事業者Aは細かい麻布地区を知らない分選ばれると事務局が苦勞する。事業者Bは黙っていても事業は進むと思うが運営に閉鎖的な懸念があり、事務局がどうコントロールしていくかが大事。</p>
委員長	<p>この意見を踏まえて採点内容の修正はありますか。</p>
委員B	<p>点数の修正をしたい。事業者Bの2番を20点にしたが16点に修正したい。</p>
委員長	<p>他に採点内容の修正はありますか。 (一同、修正なし)</p>
委員長	<p>点数は僅差であるが、これまでの選考の過程での結果なのでこの結果を尊重したい。 審査結果、各委員からの意見を総括した結果、事業者Bを事業候補者として選考することといたしたいですが、よろしいでしょうか。 (一同、異論なし)</p>
委員長	<p>それでは事業者Bを候補者として選定します。</p>

委員長	<p>4 第2回選考委員会議事録について 第2回選考委員会の議事録については、各委員でご確認いただき、修正がございましたら、事務局までご連絡ください。</p>
委員長	<p>5 閉会 予定された議題は終了しました。最後に事務局から連絡事項をお願いします。</p>
事務局	<p>(連絡事項)</p>
委員長	<p>(委員長から閉会の挨拶) ~詳細省略~</p>